

厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2016
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

特集 保健福祉サービス提案体制で新システム 「受付型」から「提案型」へー佐賀市世帯単位で最適サービス表示	2
老人ホームの食事は軽減税率 あいまいな「外食」に線引き	6
喫煙・禁煙をめぐる動き	7
中央省庁ニュース	8
BCG接種、中止含め検討へ 小児結核減少で/加入逃れて事業所調査 厚生年金、推計200万人/病院と薬局、フェンス不要に 構造規制を緩和 ほか	
進言(埼玉県)	9
地方財政「見える化」推進	10
マイナンバー関連情報	11
学会・医療情報	12
インタビュールーム(和歌山県)	13
海外トピックス	14
私たちの工夫	15
事件・事故・裁判	16
廃棄カツ転売事件関連情報	17
ニュースフラッシュ	18
無戸籍の可能性を把握/子育て向け、空き家改修費補助/「小さな拠点」でネットワーク/保健医療従事者養成へ/骨髄ドナーに奨励金/HACCP型衛生管理で認証制度 ほか	

歩み

年末年始は、色々と心に響くことが多い。クリスマスシーズンには海外の友人からカードが届く。正月は年賀状だ。

昨年は、先回「一枚のカードから」に書いたように、ハンガリーに住む日本女性との長年のカードだけの繋がり(つな)が思わぬ来訪になり、そこからまた多くの友人の広がりが続くようになった。

この冬に届いたカードは、ドイツの友人が四十五年ぶりに来日したいと書いてきた。彼女は、お互いにまだ若き日、当方がホームステイをし、カードが行き来する中で、彼女が三人の子供を抱えて離婚をして苦しい時期にドイツで再会し、その後カードが行き来している仲である。

社会福祉法人新生会
 名誉理事 長・石原美智子



オーストラリアから来たカードの一枚は、交換留学生として我が家のほんの短い間の娘として滞在した女性からだった。当時訪蒙する機会が多い私に招待状が来て、大雪の日に日本を発ち夏の結婚式に参列した。彼女のご主人である父親と瓜二つの息子さんの結婚式の写真が同封されていた。

年賀状にも多くの歩みの足跡がある。顔を思い出せない人がいたり、施設長だった時の利用者の家族が、もうお世話になった親の年になりましたと書いてきたりして、今年法人が四十周年を迎えることを思い出させてくれる。

まだ介護老人施設がスタートして間もなくの頃、国から監査があった。最初の二年ほどは町役場を

定年になった人が施設長だった。彼が青い顔をしている横で私は、やるだけやっただけという思いがあつて、国から見に来てくれると大喜びをしてひどく叱られたことを思い出したのは、正月明けに受け取った白菊の地模様一枚の寒中見舞いである。その時監査に来てくれた担当者一人は、同年と分かつて何故か年賀状だけはやり取りしていたのだが、奥さんから、昨年亡くなりましたとの知らせであった。

私たちがかわりを持つ利用者も多くの歩みを持つて人生の仕上げの時を迎えているのだ。安倍総理が掲げる一億総活躍社会は我々が既に心掛けてきたことで、八十年代の現役もいる職場だが、私自身もそれを実践するため、今の力量で出来ることを若者と共に担いつつ、いつの間にか利用者になつていくに違いない。